

RCCイブニングふぉー 「ドラゴンボール伝説」

2005.6.9放送

写真・文、©2006. 錦川 鯉
龍神釜水と2つの出合清水と、田所屋敷の関係

水分神社
安芸郡府中町



錦川 鯉プロフィール

フリーライター、KN企画代表。広島県内700ヶ所以上の名水、共同井戸、自然湧水など、水に由来する話を集めて、「錦川 鯉の名水賛歌」シリーズを出版しています。水場を取材し、写真展、バスツアー、講演活動を通して、水の大切さを伝えています。(名水賛歌広島版シリーズは、現在、5冊出版しており、最終的に6冊以上のシリーズになる予定です) KN企画では、自費出版のサポートをし、作家が独立し、出版活動を続けられるようコンサルタント業務をしています。2004年に広島の水場を守る会発足。2005年に西日本作家協会設立。
趣味：登山、釣り、園芸。(1957年生まれ、広島市在住)
n-koi@mc2.seikyoku.ne.jp
<http://hc2.seikyoku.ne.jp/home/n-koi/>

龍神釜のある地獄谷は、過去、大雨洪水の度に姿形を変えて来ました。極楽寺山に向っては、砂防堤が数段存在します。この砂防堤は、災害が起ることに造られてきました。その上、新幹線トンネルと山陽自動車道が通り、歴史ある聖地龍神釜は幾重にも分断されています。さらに、1991年(平成3年)台風19号、1999年6.29大雨土砂災害によって、ただでさえ急峻な溪流は、姿形を変え、倒木と草むらで荒れ果てていた。

その変わり果てた姿を2001年に発見して以来、名水賛歌の中でどう表現すればいいのか、この事態をどう伝えていけばいいのか、私はどうしたらいいのか事の重大さに途方にふてしまった。

そんな中2005年3月末にRCC榎高ディレクターから「名水取材したい。龍神釜の青石の御神体はどうなっているのか」といった質問が持込まれ、龍神釜水の取材経緯をお話しすると一緒に取材することになりました。

RCCと一緒に取材をすすめるうちに、地獄谷の全貌と田所文書の一部が解明がされ、龍神釜二の釜において、66年ぶりに貴船神社神事が復活する運びになりました。

5月30日に、地元有志による龍神釜の清掃とドラゴンボール捜しが行われ、祭当日は二の釜に注連縄が張られました。私はきれいに底ざらえされた二の釜と滝に張られた注連縄を見て、これまでの不安が吹き飛んだ。これで龍神釜が保全される第一歩が印されたように思えたからだ。

龍珠(青石)の掘り出し作業



龍神釜水二の釜付近
2001年撮影



新しい御神体



龍神釜水
二の釜(水の釜)
66年ぶりに神事を行うため、釜がきれいに掃除され注連縄が張られた。



雨乞いの祝詞を唱える川口宮司
神事参加者
五日市観音神社総代、三宅のルーツを探る会、田所恒之輔(田所明神社宮司)、地元有志、広島の水場を守る会など

お浄めの塩撒き



ちなみに、この度の雨乞い神事が6月1日に行われた理由は、昭和14年に行われた最後の雨乞いが6月1日にされたのと、京都の貴船神社の雨乞いの祭日に合わせたからです。神事に参加したのは、五日市観音神社関係者、三宅のルーツを探る会、田所恒之輔(田所明神社宮司)、広島の水場を守る会などでした。

川口亮二宮司(五日市観音神社)によると、「今回は折雨の雨乞い神事ではない、防災という意味で行う雨乞い神事です。過去6.29災害などがありました。今後は、この谷を見守ってください。水は命の源です。五穀豊穡を折り、ゆたかな水を与え下流に住む人々に豊かな水を与えてくださいという祈願をしました。」という。

屋代川の上流の峡谷は通称地獄谷と呼ばれ、龍神の釜という場所が3ヶ所あり、上流から順に、一の釜は「火の釜」、二の釜は「水の釜」、三の釜は「風の釜」と区別して呼んでいました。

日照り続きの水飢饉の年には、保井田・千同・坪井・三宅・屋代の5ヶ村の人々は、比較的近寄り易い「二の釜」に向い釜の中の砂や小石をとり除いて清掃し、青石のご神体をとり出し、この谷の上手にある貴船神社（竜王社）に集合して神主を招いて雨乞いの祈りをする慣しがありました。釜とは学術用語で「甕穴」と呼ばれるものです。

五日市三宅（屯倉、円明寺の上）あたりは、田所屋敷があったところで、弥生時代、古墳時代にのける阿岐国の中心でした。田所屋敷で阿岐国の政務と祭祀を掌っていたのが豪族の田所家（佐伯家）で、阿岐国の国造、徳速玉命の後裔として国造を代々務めていました。大化の改新以前は、天皇皇族の所有地を「屯倉」といったのに対し、豪族の所有地を田荘といいました。また、大化の改新後、譜代の佐伯の郡司を代々務めました。

田所家が行う祭事の中で一番重要な神事は、厳島神社における二月と十一月の初申の御神事です。安芸の国の神事として、朝廷が歳費を賄い、朝廷より奉幣使が来て神事を行いました。

廿日市の出合清水は、往古より平安時代まで、初申の御神事や、芸州国府八幡の祭祀に御神水（神饌用）として捧げられました。後に勅使は往復を厭い、勅使に代わって田所家が政務と奉幣使の役を南北朝時代まで行いました。

また、田所屋敷のあった五日市（旧屋代村）は、急流の屋代川によりたびたび洪水や水源不足から水飢饉に悩まされました。そこで雨乞い（五穀豊穡祈願の祈祷）が伝承されました。

雨乞いの儀式は、普通、祈雨「雨雨降れ降れ」というを思い浮かべますが、止雨「大雨止んでください、洪水にならないでください」というのも雨乞いなのです。洪水で稲が倒れてしまうのも、土砂が流れ込み田が埋るのも、国の繁栄をさまたげるものだというわけで「雨上げの雨乞い」をするのです。今では田んぼはほとんど住宅地が変わり、水飢饉はなくなりました。

干ばつや大雨などで深刻な事態になると、田所家は村の神官と里人と共に、龍神釜水とドラゴンボール（龍珠）を貴船神社に供えて雨乞いの神事をおこなってきました。番組では御神体としてドラゴンボールの中心を取り上げましたが、厳島神社の初申の御神水では、廿日市の出合清水を御神水として供え、また、雨乞いの儀式では、龍神釜水を御神水（神饌用、お供え）として供えてきたことも忘れてはいけません。



貴船神社 出合清水（全国名水百選）
宮島カンツリー倶楽部 府中町石井城1丁目
ゴルフ場敷地内 飲用不可

府中町石井城と御神水の要件を満たしている



龍神釜は、神聖な聖域で、むやみやたらに入っははいけないところでした。古くからの言い伝えがそれを物語っています。「聖地に石を投げては、絶対にいけない（龍神に投げたことになる）」。「龍が水（二の釜）を飲んで天に昇った」「龍は盃一杯の水があれば、天に昇る」という伝説が元になっているようだ。人々は、比較的近寄りやすい二の釜の壺をきれいにし、その中にある青石の御神体を貴船神社にまで持ち上げ、雨乞い神事が行なわれました。

謂れでは、持ち上げる際、決して「青石」が乾いてはいけないという。それ故、一気に持って上がって、御神体を祭るためには、元気な若者が選ばれました。（力の無い者がもたもたやっていると石が濁るのでいけないといわれていました）また、この地は近代まで、女人禁制の場所でした。



龍神釜水
三の釜（風の釜）（左）
一の釜（火の釜）（下）

国造家・田所屋敷が、府中町石井城に移った理由は、「五日市町史、五節」によると、次のとおり記されている。

屯倉も田所も大化の改新によって廃止され、豪族も中央集権的な官僚機構の中に吸収されていきました。安芸国在庁官人として活躍した田所家（佐伯家）は、始祖、資隆～資遠～資俊を経て、四代信職の世に、府中石井城に移り、安芸国在庁官人の長官と国府奉幣使を兼ねて、代々国司祭官を務めました。1387年～1872年まで「正三位上安芸国厳島神社年中高度初申御神事定勤使代上御役祭主 兼 府中松崎八幡及び総社も、厳島と同様定勤使代」という長い名前の官職（勅使代兼祭主）を代々勤めました。

府中には、平安時代、「総社」という、国司が国内の諸神社を巡拝する代わりに、国中の神霊を合祀した神社がありました。府中に移った田所家は勅使代兼祭主として、日照り干ばつが続けば、水分峠にある水分神社において、府中石井城の出合清水や今出川湧水を、御神水（神饌用、お供え用）として供え、盛んなる祈禱を捧げ、呉笠々宇山の中腹で焚き火をして、雨乞いをしたといわれています。

全国名水百選の出合清水（安芸郡府中町石井城）の名は、大化の改新後、水の豊富な府中に田所屋敷が移った際、前述の初申の御神事御神水として大切にされてきた廿日市の出合清水（廿日市市内1丁目、山本邸）の名を、府中にもっていき、引き継いで使ったものと考えられます。

安芸の国 出合の清水 鷲の森 阿弥陀ヶ峰に 厳島姫 (厳島道芝記、読み人知らず)



出合清水
廿日市廿日市町（山本邸）
飲用不可。津和野街道と旧山陽道の道の辻（分岐点）にあたるので、道の出合ったところという意味で、出合清水と名がついた。
歌は安芸の国の景勝地を詠った古歌です。鷲の森は廿日市洞雲寺の裏にあり、阿弥陀ヶ峰とは極楽寺山のことで。



田所明神社 田所名水・御神水

このように歴史民俗学的な由来があることから、広島における全国名水百選は、これまでのように府中町石井城の出合清水だけを全国名水百選としてとらえるのではなく、2つの出合清水と、龍神釜水と、田所屋敷の関係を、水分神社、それらをすべてを総称して、全国名水百選出合清水ととらえ、歴史由来を啓蒙し、水質保全活動を行い、未来に伝えていくべきだと錦川 鯉は考えます

龍神釜二の釜が草むらに覆われ、近付くことができなくなり、谷筋が土砂でおおわれていたことについては、名水賛歌の取材当初から、ずっと心を傷めておりました。そしてこの度、名水賛歌の取材資料によって、地域の人々が、龍神釜の保全活動へと進むきっかけとなったことは、長年、取材をし資料提供しながら水場保全を呼び掛けてきた成果のひとつだと思っています。

しかも、1993年以来、茶臼山水に変更されていた原爆献水として、龍神釜二の釜が復活してくれたことを喜んだのは、私一人ではなく、地元民の中にも何人かおられたことも嬉しく思いました。

龍神釜の話は皆まぼろしのように、ほんとうの事を誰も知らなかった訳ですが、この度、地域の有志による保全活動が起り、66年振りに雨乞い神事してもらった龍神さんも、さぞかし喜んでおられるに違いありません。2005年の夏は安芸の国に対して適度に雨を降らせてくれているようです。

写真・文、©2006.7
錦川鯉の名水賛歌VOL.5より